

米国における看護教育カリキュラム開発セミナー及びリハビリテーション病棟、老人ホームの施設見学研修

泉 キヨ子

金沢大学医学部保健学科看護学専攻
(金沢大学医療技術短期大学部看護学科)

【研修期間】

平成6年7月31日～8月11日

【研修国および研修施設】

アメリカ

(1)シアトル市

ワシントン大学看護学部、ケイロウ、アイダカルバーハウス、ワシントン大学病院リハビリテーション病棟、VAホスピタル

(2)ソルトレイク市

ユタ大学看護学部、ユタ大学病院、ホスピス

I. はじめに

1995年10月に当短期大学部も4年制大学に昇格し、医学部保健学科としてスタートしたばかりであるが、全国の看護系大学としては41番目である。1984年には10校、5年後の1989年にも11校だった看護系4年制大学であったが、昨今、わが国の看護教育は急速に4年制大学化が進んでおり、まだまだ増加の傾向にある。

これらの背景には、人々の高度医療から在宅ケアまでの質の高いケアへの要求、さらに健康生活に対する主体的な取り組みなど、さまざまな医療環境を取り巻く情勢の変化があろう。一方、4年制大学としての看護教育は、単に知識の伝授だけでなく、物事の本質を見抜き、知識を活用して判断したり応用する能力を身につけること、つまり、現象の本質を見抜き、必要なアプローチを自ら考えて行動することであろう。しかし、そのような教育をするにはどのようなカリキュラムを考えていけばよいだろうか。

今回、看護教育では全米でもナンバーワンにランクされているワシントン大学看護学部において、カリキュラムの考え方や教育ラボの実際を学ぶ機会を得た。さらにユタ大学看護学部、老人施設やリハビリテーション施設もいくつか見学し、米国の看護教育や看護実践の場での現状について理解を深めることができたので報告する。

II. 研修内容と主な目的

1. 看護教育について

1) 看護教育カリキュラム開発セミナーの参加
(ワシントン大学看護学部)

2) ユタ大学看護学部

- ①カリキュラム作成の基礎と実際について学ぶ。
- ②大学や大学院での看護教育について研修する。

2. リハビリテーション施設や病棟における看護の実際

- ①リハビリテーション施設の構造や機能について見学する。
- ②リハビリテーション施設での看護婦職種(クリニカルナーススペシャリスト、リハビリテーション認定看護婦、スタッフナース)の活動やリハビリテーションスタッフとのかかわりについて知る。

3. 老人ホームについて

- ①老人ホームの構造や機能について見学する。
- ②老人ホームにおける看護の実際を見学する。

4. ホスピスについて

- ①ホスピスの構造や機能について見学する。

III. 研修結果

1. 看護教育について

1) 看護教育カリキュラム開発セミナーに出席して
(ワシントン大学看護学部)

a. 研修プログラムの内容

このセミナーのねらいは、ワシントン大学看護学部でのカリキュラムの変遷と改革を知り、学士課程や大学院における看護教育カリキュラムの開発方法の基礎と実際を学ぶことである。8月2日から5日までの4日間4人の教授陣による講義や教育ラボ、病院見学、さらに日本の参加グループによるブレン・ストーミング等が行われた。日本からはセミナーの企画委員も入れて大学や短期大学の教員を中心に23人が参加した。

プログラムの内容は、(1)看護教育のニーズ、社会

資料1 ワシントン大学看護学部のカリキュラム

QUARTER 1: THE NATURE OF HEALTH

(健康の本質)

NURS 301 The Nature of Health & Caring
 NURS 302 Practicum: Nature of Health & Caring
 NURS 303 Introduction to Professional Nursing
 NURS 304 Bases for Understanding Human Responses I II III
 NURS 450 Connected Learning

Total Credits 15

QUARTER 3: CARE IN ILLNESS I

(病気のケアI)

NURS 401 Care in Illness I
 NURS 402 Practicum: Care in Illness I (実習)
 NURS 403 Introduction to Research in Nursing
 NURS 404 Interpersonal Therapeutics
 NURS 450 Connected Learning

Total Credits 15

QUARTER 5: COMMUNITY AS CLIENT

(クライアントとしての地域)

NURS 408 Nursing Care with Families in the Community
 NURS 409 Nursing Strategies for Community as Client
 NURS 410 Legal & Ethical Issues in Clinical Practice
 NURS 450 Connected Learning
 ELECTIVE

Total Credits 14

QUARTER 2: THREATS TO HEALTH

(健康障害)

NURS 305 Threats to Health
 NURS 306 Practicum: Threats to Health
 NURS 307 Human Social Systems
 NURS 308 Bases for Understanding Human Responses II
 NURS 309 Pharmacotherapeutics in Nursing Practice
 NURS 450 Connected Learning

Total Credits 16

QUARTER 4: CARE IN ILLNESS II

(病気のケアII)

NURS 405 Care in Illness II
 NURS 406 Practicum: Care in Illness II
 NURS 407 Cultural Variation and Nursing Practice
 NURS 450 Connected Learning
 ELECTIVE

Total Credits 14

QUARTER 6: TRANSITION TO

PROFESSIONAL PRACTICE

(専門職実践への移行)

NURS 411 Transition to Professional Practice
 NURS 412 Nursing Care Systems
 NURS 450 Connected Learning

Total Credits 16

のヘルスケアニーズにあった看護者を教育するために大学や大学院教育がなぜ必要なのか (2)看護学における準学士号と学士号のアメリカでの状況 (3)看護教育の変遷を世界的観点から考察：各国との比較 (4)看護教育におけるカリキュラムの変更：概観 (5)ワシントン大学における看護教育のカリキュラム：過去 現在 将来 (6)将来はどの方向に進むのだろうか、などである。教育ラボは看護学部のさまざまな技術の教授法や修得法が紹介された。例えば、その教育方法にはコンピューターとインタラクティブメディアをつかった独自のラーニングステーション、ビデオ録画とプレイバック装置、モジュール、緊急ケアの状況で使われる装置やその技術修得のための装置などを紹介され、一部実際に使用してみた。

ワシントン大学看護学部は1992年にカリキュラムを改正した。改正されたプログラムを資料1に示した。この改正の主な理由は、(1)科学やテクノロジーが急速に発展している中で、看護に必要なすべての知識を学生に教えることが不可能になってきた、(2)

救急ケアの場で看護技術を学ぶことが困難になってきた、(3)学生がカリキュラムをバラバラに理解している、(4)医療の問題も変化して、これからの医療で重要視されるのは、セルフケア、予防、そして健康維持になってきた、(5)疾患や身体的ケア技術に知識の焦点が置かれやすい(人との相互関係やコミュニケーションよりも)、(6)看護の専門分野別の看護を強調すると実践知識で患者を部分的に考えることがある、等があげられるようだ。またワシントン大学看護学部における学生の入学時の平均年齢は29歳であるようだ。すなわち学士入学者が多い。専門教育もそれまでの3年から2年に短縮された(これは後でユタ大学でも同様の傾向がみられた)。さらに全米の入院患者の在院日数が極端に短くなってきており、病院での臨床実習ができにくいことも一因となっているようだ。

そこで、これらのさまざまな情報を整理、統合して、思考力や問題解決能力を強調し、看護を実践するためのものの考え方 (critical thinking) をベー

スにした教育プログラムを考え、カリキュラムを作成した。カリキュラムを具体的にみると、資料1のように、看護の専門として、1学期：健康の本質(15単位)、2学期：健康障害(16単位)、3学期：病気のケアI(15単位)、4学期：病気のケアII(14単位)、5学期：クライアントとしての地域(14単位)、6学期：専門職実践への移行(16単位)から構成されている。また基礎必須科目としてはコミュニケーション(15単位)、問題解決(8単位)、生命科学(28単位)、解剖学、生理学、化学、栄養学、微生物学など、人文科学(15単位)、社会科学(15単位)より成り立っている。

私の感想としては、カテゴリーは健康から病気、地域、看護管理という流れで、抽象的な概念ではわかりやすいが、実際的には日本の基礎看護学や成人看護学というような枠組みが取り払われているので、具体のイメージがつきにくかった。

ところで、critical thinking についての考えは全米の看護教育全体(NLN)に渡り、討議され採用されており、それぞれの大学で独自の定義をして使用しているとのことであった。ワシントン大学やユタ大学の2つの大学で、どの研修期間中も看護教員が

最も熱っぽくこの“critical thinking”のキーワードを使って、そこでの教育を力説していたのは印象深い。また帰国後 *Nursing Education* (雑誌)などでこの特集の論文を数多く目にした(その後我々は日本でのクリテカルシンキングの研究会を設立し、現在に至っている)。

2) ユタ大学看護学部

ユタ大学看護学部は、等身大より大きなナイチンゲールの像がまず我々を迎えてくれ、親近感を募らせ大学であった。卒業間近の学生の統合セミナーの参加をはじめ、講義は学部のカリキュラムやナーシング・インフォマティクス(看護の情報管理)であった。カリキュラムは日本に近いものであった。ユタ大学でのカリキュラムを資料2に示した。具体的には、成人のヘルスアセスメント、看護過程(理論と実習)、成人看護学(ここでの表現は *Physiological Nursing*)の理論と実習、薬物療法の看護管理、病態学、母性看護学の理論と実習、老人看護学の概念と実践、看護研究の基礎、小児看護学の理論と実習、精神看護学の理論と実習、患者教育、看護管理、地域看護の理論と実習などで日本とよく似ていた。

資料2 ユタ大学看護学部のカリキュラム

UNIVERSITY OF UTAH COLLEGE OF NURSING Baccalaureate Sample Program of Study

Winter

Nurs 300 Health Assessment of the Adult (3)
Nurs 201 Nursing Process: Theory (3)
Nurs 202 Nursing Process: Clinical (4)

Spring

Nurs 320 Physiological Nursing: Theory (3)
Nurs 321 Physiological Nursing: Clinical (4)
Nurs 326 Nursing Management of Drug Therapy (2)
Nurs 327 Pathophysiology I (3)

Autumn

Nurs 336 Maternity Nursing: Theory (3)
Nurs 337 Maternity Nursing: Clinical (4)
Nurs 338 Gerontological Nursing: Concepts and Practice (3)
Nurs 339 Introduction to Nursing Research (2)

Winter

Nurs 340 Pediatric Nursing: Theory (3)
Nurs 341 Pediatric Nursing: Clinical (4)
Nurs 342 History and Issues in Professional Nursing (3)
Nurs 380 Special Topics in Nursing (2)

Spring

Nurs 431 Psychosocial Nursing: Theory (3)
Nurs 432 Psychosocial Nursing: Clinical (4)
Nurs 433 Group Processes in Nursing Practice (3)
Nurs 434 Organizational Context of Nursing Practice (2)

Autumn

Nurs 424 Teaching and Counseling in Nursing (2)
Nurs 425 Advanced Physiological Nursing: Theory (3)
Nurs 426 Advanced Physiological Nursing: Clinical (4)
Nurs 427 Pathophysiology II (3)

Winter

Nurs 435 Community Nursing Assessment (3)
Nurs 436 Community Health Nursing: Theory (3)
Nurs 437 Community Health Nursing: Clinical (4)
Nurs 480 Special Topics in Nursing (2)

Spring

Nurs 440 Synthesis in Nursing (10)

2. リハビリテーション施設の見学研修

私の専門がリハビリテーション看護学ということで、今回いくつかのリハビリテーション施設やそこでの看護者の働きかけの現状を研修した。

a. ワシントン大学病院リハビリテーション病棟
ベッド数は30床の病棟である。入院患者の疾患は脊髄損傷（四肢麻痺，対麻痺）が多い。病室は一人から二人部屋が多く，日本より広くスペースがとられていたが，呼吸器や電動車椅子がかなりの場所を占めていた。在院日数は四肢麻痺患者の場合3-4か月，対麻痺患者の場合は2か月，その他頭部外傷などは20日位というから随分長いが，だんだん短くなってきているとのことであった。看護婦はすべてR.N（正看護婦）であり，学部卒業生は2-3人と少ない。うち，リハビリテーション看護婦の資格を持った人（CRRN）は5-6人である。満床であれば，日勤9-10人，準夜9-10人，深夜3-4人ということで，日本よりはるかに多く，とくに準夜と日勤の数が同じというのには驚いた。また，その日の入院の患者数が少ない場合はマトリックスが有り，他の病棟（ICU，CCU以外）へ応援に行くこともきちんと義務づけられていたのにはいかにもアメリカらしいと思った。設備で驚いたのはさまざまな入浴設備であった。3-4種類のリフトバス等の介助で入る入浴設備が完備されていた。同じ階に病棟と並んで，理学療法室や作業療法室があった。特にさまざまな障害ある人の車の運転免許がとれる設備は興味深かった。

b. VA ホスピタル（退役軍人の病院）のリハビリテーション病棟

シアトルの郊外の高い丘の上にこの病院がある。とてもきれいな病院で，日本人で精神看護のCNS（専門看護婦，クリニカルナーススペシャリスト）としてこの病院に働いている田中勝子さんの出迎えを受け，リハビリテーション病棟はリハビリテーション看護の男性のCNS（脊髄損傷が専門）に案内してもらった。ワシントン大学病院より設備はさらに整っており，広いスペースに28床の病棟があった。その広さは，金沢大学医学部附属病院の50床の病棟を2つ併せたより大きいように思えた。CNSの彼には病棟内に個室が与えられていた。最初にウロダイナミックの検査室に案内してもらった。ここではこの検査はすべてナースが行うとのことで，排尿管理はナース（ここではCNS）に任されてらしい。脊髄損傷の患者が多い。併設して，ナーシングホームがあった。病棟を退院した患者はここで暮らす人もかなりいるという。病棟ではやはりさまざまな入浴設備が完備

していた。リハビリテーション施設としては大きなプールが圧巻であった。

3. 老人ホームの見学研修

a. ケイロウ（日系老人ホーム）

シアトルの小高い丘の上にダウントウンが一望できるところにこのホームがある。日系2世の上野医師が説明してくれた。入所者150人であり，うち日本人は135-6人（1世平均年齢92.3歳，2世76.5歳）であり，のこりは韓国人など他国の人が希望して入所しているようだ。雇用者は180人であり，アメリカらしくボランティアが沢山働いていた。デイケアセンターも併設していた。このホームの起こりは，15年前，日本人の1世が70-80歳になった時に白人の老人ホームに入所しても，英語が話せない，食事は洋食で欲しくない，趣味や活動は白人のするものとはつまらない，などの条件で白人のホームが合わなくて自殺する人がでてきたらしい。そのため2世の人が10人位集まって相談して小さいホームを設立したという。そうすると，6か月後には63人の入所でそのホームが一杯になってしまった。そこで，7-8年前に現在のところに1,200人が2,000ドルずつ融資して買ったという。このホームのモットーは“匂がしないこと”であるという。確かに，所内のどこを歩いても匂がしなく，とてもきれいに清掃が行き届いていた。また例えば食事は5分間でベッドサイドへ運ぶということで，隅々まで入所者のニーズにあわせた配慮がとられていた。ホーム内には美容室まで完備していたのはうらやましく思った（美容師は週1回出張）。

b. アイダカルバーハウス(IDA CULVER HAUSE)

ケイロウのきれいさに驚いたのも束の間，次に訪れたアイダカルバーハウスは，面積や建物すべてその数段上をいった。この施設は，1990年に3つの組織すなわち，個人と退職教師とワシントン大学によりつくられた。全体で400床あり，それは以下の3つに別れていた。(1) social activity これは独立して日常生活が営める人の建物（260-270床）であり，一人でも同伴でも自由である。(2) assisit living 30世帯のアパートであり，身体的にケアのいる人，アルツハイマーの初期の人が住んでいる。ここでは，看護助手が日中2人，夜1人，管理職員1人働いており，必要時正看護婦を呼ぶことができる。(3) skilled nursing 74床あり，認識の障害者（痴呆，アルツハイマーの進行している人），リハビリテーションの必要な患者（急性疾患の後療法，骨折，脳血管障害者），慢性疾患患者（日常生活の援助，ホスピスのかわり）

などが入所している。長期入院の場合どんな援助が必要か計画してさまざまな資源を準備している。ここでは、activity programとして、レクリエーション(パーティー、ダンス)運動(3/w)、水泳、ウォーキング、バイブルスタデイなど種々が準備されていた。

施設全体として食事は900食準備している。独立している人達は1日2食が与えられ、他の1食は自分達で作るといふ。介助の要る人達は1日3食出ている。食事療法の要る人達のために、16の食事療法が組まれていた。

ワシントン大学看護学部での学部学生や大学院生でのかわりは、健康教育、長期治療のケア、評価、研究、コンサルテーションであるといふ。

4. ホスピスの見学研修 (HOSPICE)

ホスピスといふので病院というイメージで行ったところがビルの事務所の一角のようなところで、どうみてもベッドがあるようにはみえない。驚いたことには、訪問専用のホスピスであった。そこにはデ

レクターと事務職員のみで、訪問看護婦は皆出かけていた。24時間体制であり、1日の訪問回数は3、4人であるといふ。現在ほぼ80人の人を訪問しているといふ。(今まで3000人)心臓疾患、エイズの人もあり、平均訪問日数17日であるそうだ。日本も近い将来このような訪問が確実に増えると思われる。

IV. おわりに

今回の研修は短期間の間に実に多くのことが学べた。特に、看護教育は博士課程をもつ2つの大学での研修を通して、看護教育の層の厚さを感じずにはいられなかった。さらに、アメリカの看護教育のキーワードはcritical thinkingといっても過言ではなかった。また今回さまざまなことが学べた大きな要因はグループの中にアメリカ生活が長い語学が堪能な教員がいて意見交換が容易だったこともこの研修の大きな収穫だったのはいうまでもない。

本研修の一部は平成6年度看護研究者養成事業、看護教員等海外研究助成費(石川県)の助成を得た。